

石西 自然再生 礁湖

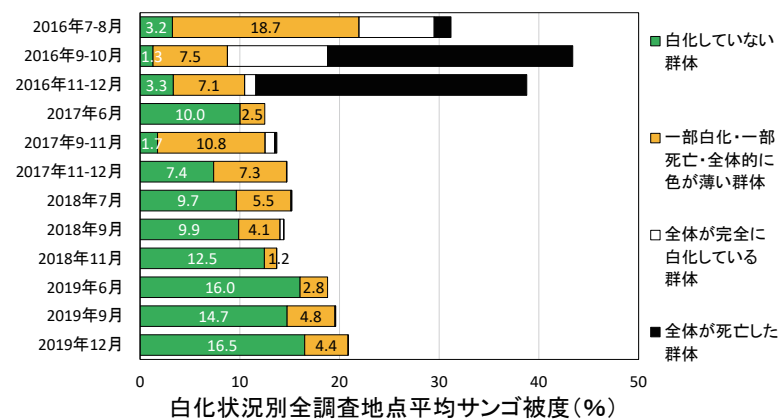
せき せい しょう こ

石西礁湖はいま シリーズ 25

▲サンゴに群れるミジュン黒島口南（2019年6月撮影）



調査地点別サンゴ被度(%)の変化



2016年夏に起きた大規模白化の影響からの回復が少しずつ始まっています。全調査地点35か所を平均したサンゴ被度は、2016年12月に最も低く11.6%でしたが、2019年12月には20.9%を記録しました（環境省石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査スポットチェック調査結果）。白化前は40%程度であったことから、まだまだ道半ばですが、このまま少しずつ回復が進んでいくことが期待されます。

サンゴ群集の被度を調査地点別にみると、海水の流動の良いヨナラ水道（図中7）やその延長の地点で回復が進んでいるようです（図中22、25）。また、外海に面した礁斜面のように大規模白化の影響がほとんどなく、被度が高いままの場所もみられます（図中27）。

サンゴ群集の生息環境により詳しく着目していくことで、自然再生を効果的に進められる可能性があります。

2019年の石西礁湖

各委員からの話題提供

● 沖縄の気候変動とその対策～もう始まっている地球温暖化～（沖縄気象台 宮内委員）

沖縄の気候変動について報告がありました。地球温暖化の進行とそれに伴う海面上昇、海洋酸性化などについて説明があり、適応方策の実行に関連する監視・予測情報として、高度化された海況監視予測システムが紹介されました。



● 石西礁湖の自然環境－長期目標の達成に向けて－（土屋会長）

これまで石西礁湖自然再生事業で実施されてきた調査の概要、協議会（WGや部会を含む）での議論の経緯や課題などについて紹介がありました。

- ①調査データ等の記録集を作成する
- ②多様な分野の関係者により調査結果の総合解析を行う
- ③サンゴ礁の保全対策を石西礁湖から世界へ発信するという3つの提案がなされました。



今後のスケジュール

「行動計画2019-2023」がスタートしました。各委員の計画した取組が次々と実施されています。今年度の取組状況や次年度の取組案については、部会や第26回協議会でも報告されます。

2019年
6月

第25回協議会
・行動計画2019-2023の承認
・環境省事業実施計画の提案

2020年
1月頃

行動計画2019-2023に沿った
取組の実施

3部会の開催
・今年度の取組状況の報告
・次年度の取組の意見交換

2月頃

第26回協議会
・今年度の取組状況の報告
・次年度の取組案の紹介
・環境省事業実施計画の承認

協議会委員の意見

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 沖縄奄美自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾空港技術対策官

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【石西礁湖ポータルウェブサイト】<http://sekiseisyouko.com>



■第25回石西礁湖自然再生協議会を開催しました

2019年6月29日(土)に、八重山合同庁舎において「第25回石西礁湖自然再生協議会」が開催され、6個人、16団体・法人(20名)、16行政(24名)の委員、一般傍聴を含め47名が参加しました。

新たに竹富町観光協会、沖縄県教育庁八重山教育事務所、石垣市教育委員会学校教育課、竹富町教育委員会教育課の4団体の参加が承認され、委員数は122個人・団体となりました。

■「石西礁湖自然再生全体構想 行動計画2019-2023」が承認されました

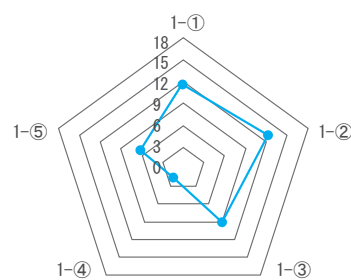
これまで協議会や部会などで議論を重ねてきた「石西礁湖自然再生全体構想 行動計画2019-2023」について事務局より最終案が示され、連携についての表現、SDGsとの関係性、情報発信方法などについて意見交換が行われた後、承認されました。

いよいよ新しい行動計画がスタートします。各委員が計画した取組について、委員同士が協力・連携しながら一丸となって進めていくとともに、現時点では該当する取組がない取組方針や今後の取組展開に向けた課題検討に取り組んでいくことも重要です。また、新しいスローガンのとおり、危機感をもって積極的に進めていく必要があります。

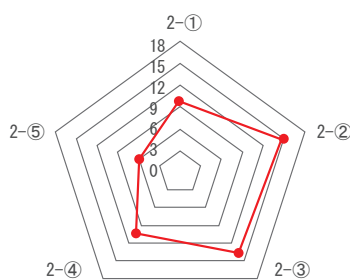


新しいスローガン
「待ったなし！今こそサンゴ礁への恩返しを」

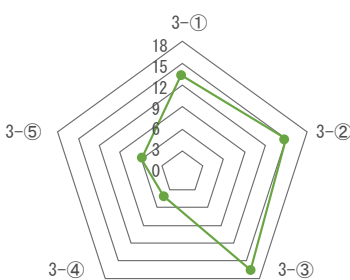
取組分野1.
サンゴ礁の今を調べる



取組分野2.
豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す



取組分野3.
サンゴ礁の恵みや大切さを伝える



協議会委員が計画している取組の数

■環境省の新しい事業実施計画が検討されています

平成20年に作成された「環境省事業実施計画」は、策定から10年以上経過しており、見直しが進められています。第25回協議会では、検討中の環境省事業実施計画の説明がありました。今後さらに検討が重ねられ、第26回協議会で協議会委員の承認を得て動き出す見通しです。

新しい環境省事業実施計画は、全体構想の長期目標の実現に向けて計画期間の5年後のサンゴ礁の姿を目標として定めることを考えています。

【長期目標】(達成期間30年：2037年)
人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

「豊かなサンゴ礁の姿」とは？

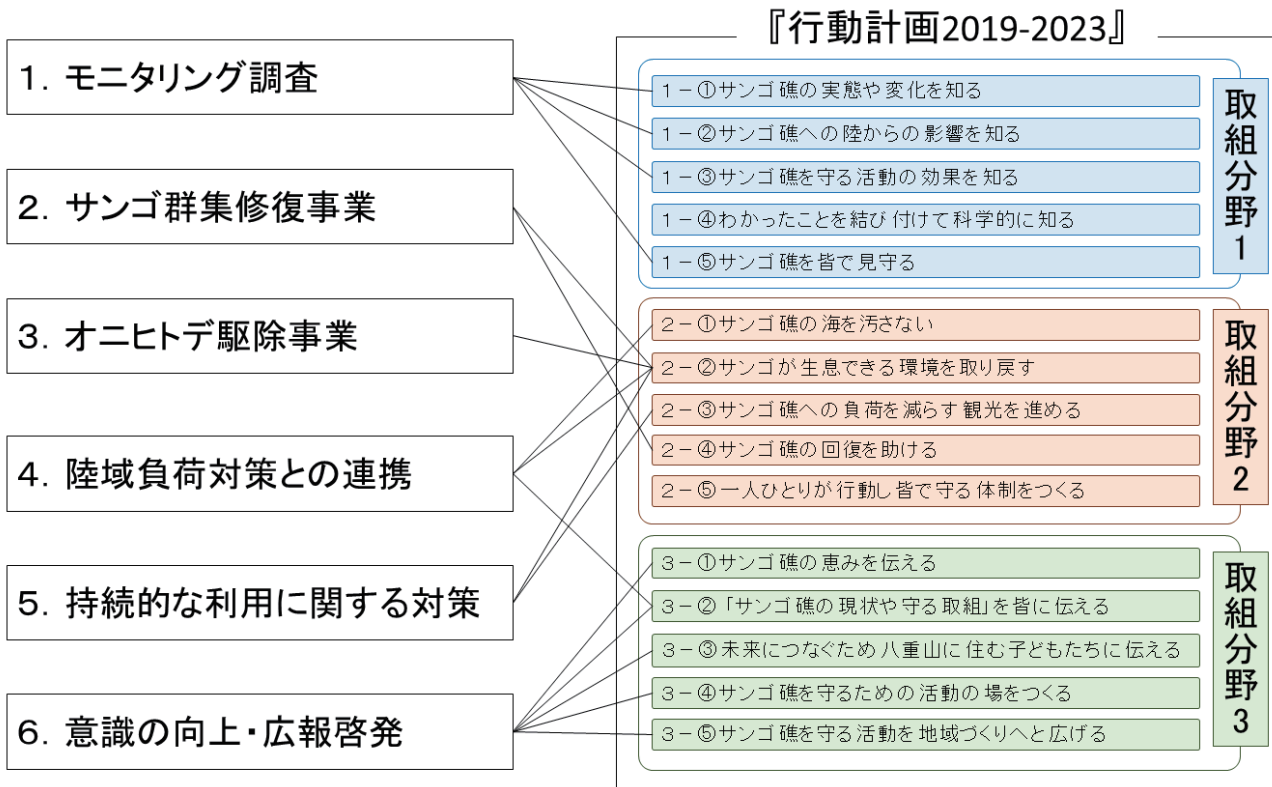
【2037年のサンゴ礁の姿】
陸域からのサンゴ礁への負荷が軽減され、サンゴ自身の生活史によりサンゴ礁生態系が健全な状態で維持されている。

新しい事業実施計画で目指す姿

【2024年のサンゴ礁の姿】
石西礁湖自然再生協議会委員が実施する様々な取組により、大規模攪乱が発生してもサンゴの回復力が失われず、サンゴ礁生態系の回復が可能である。

移植を中心にしたこれまでの再生事業は、大規模な白化の影響もあり大きな効果は得られませんでした。新しい事業実施計画においては、大きく6つの項目を検討しており「行動計画2019-2023」の取組方針との関係は以下のとおりです。

例えば、サンゴ群集修復事業は、取組方針2-②と2-④に基づいて複数の手法・技術を取り入れながら、大規模白化が発生しても事業の効果を継続的に発揮できるよう、幼生の供給量を増やし、幼生が定着しやすい基盤を作ることに主眼が置かれています。



環境省事業と「行動計画2019-2023」3つの取組分野・15の取組方針との関係